第４学年　国語科「慣用句」

◆本時の指導（第１時／全２時間）

(1) 本時の目標

慣用句の意味を知り、使うことができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点　◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1　慣用句について知る。 2　めあてを確認する。 慣用句を使って、文を作ろう。	・児童にとって身近な慣用句の具体例を出し、その意味を考えさせる。 ・慣用句には、体や心に関する言葉、動物や植物に関する言葉を含むもの、片仮名で書く言葉が入ったもの（四つの分類）があることを押さえる。
展開	3　慣用句を選んで、調べる。 4　調べた慣用句を使って文を作る。 5　クラスで、作った文を共有する。	・国語辞典を二人に一冊用意し、調べさせる。 ・教科書に載っている慣用句以外も調べてもよいこととする。 ・必要があれば、タブレットを使用してもよいこととする。【インターネット】 ・教科書の例以外の慣用句を調べた場合は、四つの分類、もしくは「その他」の分類のどれにあたるか分類させる。 ・全体で、慣用句を用いた文を一つ作ることで、慣用句を用いた文の作り方を押さえる。 ・「底が浅い」など、使い方によって相手を嫌な気持ちにさせるものもあることを押さえる。 ◇慣用句を正しく使い、文を作っている。（ノート） ・まず、隣同士で交流をさせ、気付いたことや、感想を伝え合わせた後、全体で交流させる。 **★友達の作った文から気付いたことや感想を伝えたり、それを聞いたりする。**
	6　学習を振り返る。	・今後の生活の中で慣用句を使っていけるように振り返らせる。

◆成果と課題

【成果】

導入において、慣用句の例として児童にとって親しみのあるテレビアニメで用いられていた慣用句を紹介したことで、ほとんどの児童が慣用句に対して抵抗なく学習に入ることができた。

【課題】

今回は、当日一人一冊の国語辞典を用意することができたためインターネットを利用して調べる児童はいなかったが、もしインターネットを利用する場合は情報量が多すぎるため、サイトを限定したり検索方法を事前に指導したりする必要がある。友達の文から気付いたことや感想を伝える活動については隣同士での交流の時間を十分にとることができなかったため、ムーブノートなどを使用し家庭や次時に友達同士で意見交換ができるようにする方法が考えられる。

第４学年　社会科「街の発展に尽くした人」

◆本時の指導（第７時／全８時間）

(1)本時の目標

地域の発展に尽くした先人について、当時の世の中の課題や人々の願いに着目して、地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解できるようにする。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点　◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1　江戸の街中に水を通す水道システムについて確認する。	・前時の学習を基に、塩ビ管ではない水道管を想起させる。 ・自分で当時の江戸の街をイメージさせる。 **★思いついた水道システムを発表する。**
	2　明暦の大火について知る。	・火災の規模や期間から大災害になってしまった理由を想像させる。 ・火災の状況を自分で想像させる。
	3　火災拡大の原因を、タブレットを用いて調べる。 ・家屋の密集が大災害に結びついたことを知る。	**★大災害の原因を思いついたら自分の考えを発表する。** ・調べられない児童には検索ワードのヒントを与える。
	4　家屋の密集を解消するために多くの街が西部へと移転したことを知る。	
展開	西部へ広がった玉川上水の有効利用を考えよう。	
	5　新しい街のために水が必要。どうやったら西部の街に水を届けられるかを考える。 ・玉川上水の水を分けることを分水ということを知る。	**★水を引くための水源の場所やどこを通すのかを自分で考え想像し、自分の考えを発表する。** ・ノートに記入させることによって分水の多さを実感させる。
	6　どれくらいの分水が作られたかをタブレットを用いて調べ、ノートに記入する。	◇先人たちの功績を自分で調べることができる。その功績に対して自分なりの考えをもつことができる。（ノート・発言）
	7　分水の工事は意外にも簡単だった理由を考える。	・ここまでの学習を振り返り、玉川上水の特徴を想起させる。
まとめ	6　学習を振り返る。 ・玉川上水は一度完成した後も、江戸の街の拡大に合わせて、その役割を広げていったことを知る。	

◆成果と課題

【成果】

「江戸時代」とかなり昔のことではあるが、１学期の上水道の学習を基に江戸時代の様子を想像しながらさまざまなアイデア（考え）を出し合い活発に話し合いができた。クラスの雰囲気もよくなり、ほとんどの子が自分の考えを発表できるようになってきた。

【課題】

タブレット PC を使って調べる活動は電波の状況等によりなかなか作業が進められない児童がでてしまう。大画面に提示された画像を基に自分で想像を膨らませることは全員ができており、それを伝え合うことも楽しみながらできていたため、タブレット PC ありきでない学習計画を立てておくことが必要である。

第４学年　図画工作科「自分いろがみから」

◆本時の指導（第４・５時/全７時間）

(1)本時の目標

自分で工夫して色をつけた「自分いろがみ」を切って組み合わせて、工夫して表す。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点　◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1　**前回までに、工夫して色をつけた紙を見ながら、切って組み合わせてどんなものを表現したいか、考える。** ・台紙となる色画用紙を選ぶ。	・切って組み合わせて新たに表すことを理解させる。 ・絵本「はらぺこあおむし」のエリックカール氏もそのような技法で表現していることを伝え、イメージをもたせる。 ◇自分で色をつけた紙を、切って組み合わせて表すことに、興味をもつ。＜学びに向かう力、人間性等＞
	色をつけた「自分いろがみ」を切って、くみ合わせて、工夫してあらわそう。	
展開	2　**自分の表したいものを考え、「自分いろがみ」をはさみで切ったり、のりで貼ったりして表す。** ・生き物、食べ物、乗り物、景色など、自由に自分の表現したいものを考えてよいことを伝える。	・今ある「自分いろがみ」で工夫して活用して欲しいが、欲しい色がない場合、絵の具で新たに「自分いろがみ」をつくることも可とする。（コロナ禍でなければ友人同士の交換もよい） ・「自分いろがみ」をあまり切りたくない児童がいた場合、工夫して欲しい気持ちはあるが、柔軟に対応する。 ◇表したいものを自分で発想している。 ＜思考力、判断力、表現力等＞ ◇自分で色をつけた紙を、切って組み合わせて工夫して表している。 ＜知識及び技能＞ **★自分の発想を生かし、表現することを通して育む、自分のよいところを見つける力。**
まとめ	3　友達の作品を見る。伝え合う。 4　片付ける。	**★友達の作品を見て、よさや面白さを感じたり伝えあったりすることを通して育む、考えや気持ちを聴く・伝える力。**

◆成果と課題

【成果】

自分が楽しんで色をつけた紙に、思い入れをもって、表現する様子が見られた。

【課題】

片付けの前に鑑賞の時間を確保し、活動中に教師が作品を紹介したり、隣の友達の作品を見て互いのよいところを伝えあったりする必要があると考える。

第４学年　音楽科「日本の音楽に親しもう」

◆本時の指導（第１時／全２時間）

(1)本時の目標

二つの「ソーラン節」を聴き比べながら、民謡「ソーラン節」の特徴を感じ取ろう。

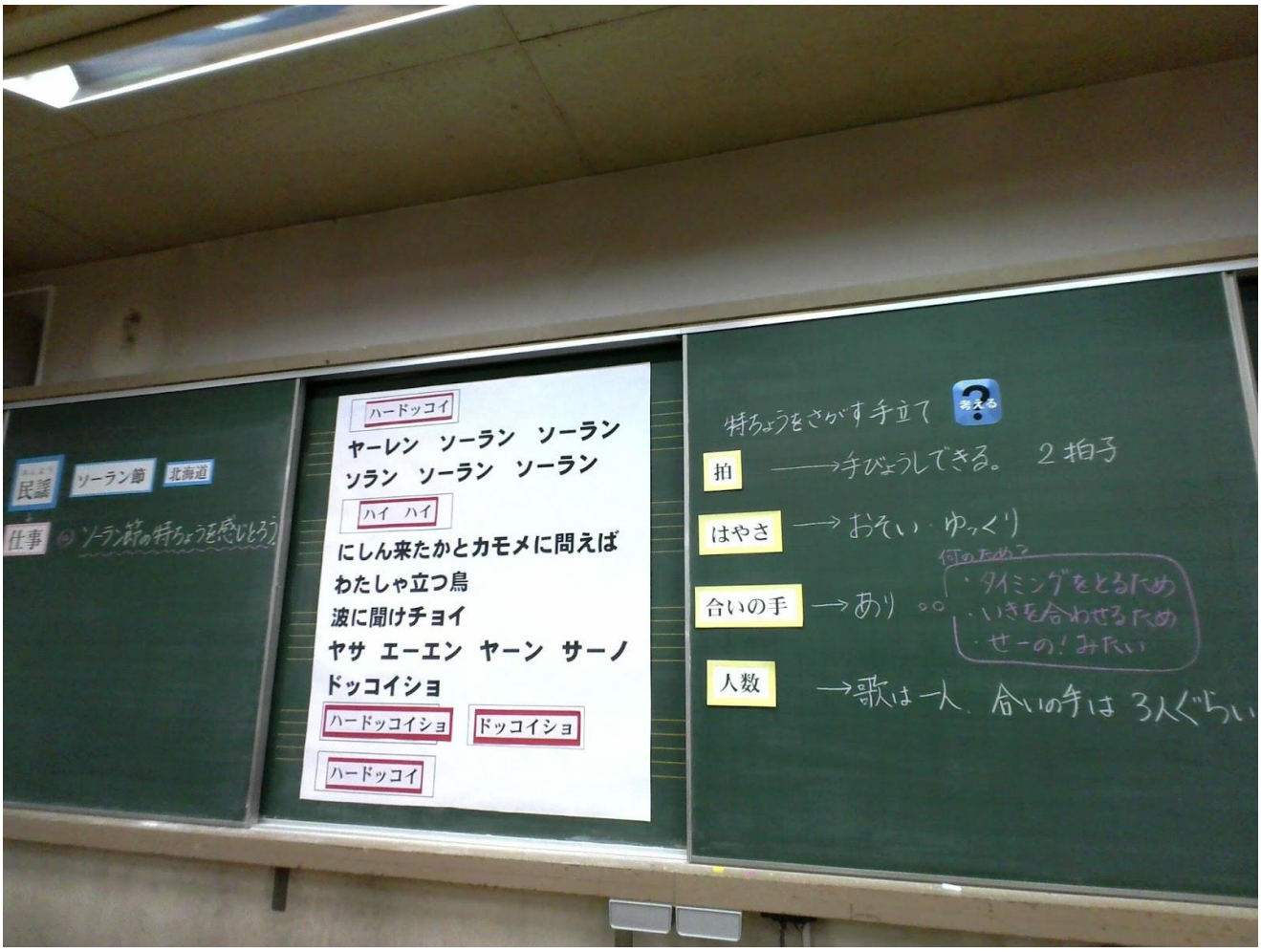
(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点　◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1　「八木節」などの民謡を聴き、曲の雰囲気を感じ取る。 ・感じたことや聴き取ったことを伝え合う。	・日本各地の民謡を少しずつ聴かせ、簡単に説明を加えるようにする。
展開	2　二つの「ソーラン節」を聴き比べる。 ・民謡「ソーラン節」を聴く。 ・運動会で使用した「ソーラン節」を聴く。 ・「ソーラン節」の民謡は前者であることを知る。	・曲の一部分だけを聴き、思っていた音楽と違うと感じた場合は、何が違うかを聞く。
	民謡「ソーラン節」の特徴を感じ取ろう。	
	3　民謡「ソーラン節」を鑑賞する。 ・何も見ずに聴き、どんな仕事をする時に歌っていたものか想像する。 ・ソーラン節の生まれた背景を知る。	・「ソーラン節」が作業歌であることを伝え、歌詞に耳を傾けるよう声かけし、聴き取れた言葉からどんな仕事をしているか想像するよう助言する。 ・挿絵や歌詞を提示し、ニシン漁の作業から生まれた歌だということに気付くようにする。
	4　「ソーラン節」の特徴を聴き取る。 ・聴き取る要素を手がかりに特徴をつかむ。 ・手拍子をし、速さや拍を感じながら聴く。 ・合いの手や掛け声をみんなで言う。	・聴き取る要素（拍・合いの手の有無・速さ・歌っている人数・歌い方）を提示し、特徴をつかめるようにする。 ・合いの手や掛け声の役割は何なのか考える。 **★音楽の特徴を感じ取るために、諸要素を手がかりにしながら目的をもって聴く。** ◇日本の音楽に興味関心をもち、曲の特徴に気付いて聴く学習にすすんで取り組んでいる。（発言・ワークシート）
まとめ	5　本時の学習を振り返り、作業や仕事と結びついた音楽が他にもあることを知る。	・南部牛追い歌（岩手県民謡）を聴く。

◆成果と課題

【成果】

内容の違う「ソーラン節」を聴き比べることにより、その違いから楽曲に集中させることができ、その楽曲のもつ音楽的価値に気付かせることができた。

【課題】

鑑賞ではどの音源を教材として使うかが重要である。感じ取らせたい音楽的要素に着目できるのに適した音源を選択するようにしたい。